

七ヶ宿町教育基本方針

日本国憲法、教育基本法の精神並びに宮城県教育基本方針と
地域の実態に即応しながら

「生きる力」をはぐくみ、楽しく学べる学校
「自立と共生」の調和がある地域社会
「生涯現役」をめざし、芸術文化とスポーツに親しむ町民
を重点に町民の生涯にわたる学習の充実に努める。

令和7年度 教育施策

【学校教育の基本方針】

- 豊かな自然に満ち、歴史と文化の香り高い七ヶ宿町の郷土を愛し、心身共に健やかで、夢や志の実現に向けて主体的に学び、考え行動し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら絶えず変化する予測困難な時代を前向きに受け止め、感性豊かな児童生徒の育成に努める。
- 町や地域活性化のために「志教育」を一層推進し、「生きる力」を育むため
 - 「知」＝確かな学力
基礎、基本を身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
 - 「徳」＝豊かな人間性
自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
 - 「体」＝健康・体力
たくましく生きるための健康や体力のバランスの取れた児童生徒の育成を目指し、魅力ある教育活動、多様化した教育環境の一元的な体制の構築、保・小・中の一体的な連携等、地域の特性を活かした教育活動に努める。

【令和7年度の優先事項】

1. 小中一貫教育を見据えた、保・小・中学校間における連携を充実させ、特に小・中においては、9年間の義務教育を一体的に捉え、指導の一貫性や学びの系統性において連携を意識し、連続性のある教育の実現による持続的で魅力ある学校づくりを推進する。
2. 学習指導要領の趣旨を踏まえ、地域の特性を活かしたPDCAサイクルによる教育課程を編成し、学校ぐるみで教育活動を行い、最大限の教育効果の向上に取り組み、3つの柱からなる「資質・能力」をバランスよく育み、「社会に開かれた教育課程」の実現と共に、行きたくなる学校づくり・学びたくなる授業

づくりを目指す。

3. 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を核として地域、保護者と共に学校づくりを推進し、地域に開かれた学校づくりに取り組む。
4. 小学生を対象にした夏期休業中の寺子屋事業、中学生を対象にしたオンラインによる学習支援を継続する。
5. 志教育の理念のもと、将来の夢と志の実現に向けて自主的・自立的に行動する児童生徒を育成する。また、総合的な学習における実践的な学びの成果を発信する。
6. 児童生徒の国際化社会への適応、コミュニケーション能力を培うため、小学校1年生からの外国語（英語）活動を推進する。
7. 教育D Xの推進を加速させ、1人1台端末等のI C T機器を積極的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

【重点努力事項】

【学校教育の基本方針】に則り、校長のリーダーシップの下、全教職員の英知と努力を結集し、学校運営協議会を核とした地域との協働による「魅力ある学校」づくりと確かな学力の定着及び個々の実態・特性の把握と合理的配慮等に基づくインクルーシブ教育を推進し、一人一人の自己有用感、自己肯定感を高め、以下の重点努力事項の達成に努める。

※インクルーシブ=inclusion いろいろな人が個性・特徴を認めあい、いっしょに活動すること。

1

「確かな学力の育成」

（１）P D C Aサイクルによる教育課程の編成と確実な実施

【地域の特性を踏まえた教育課程の編成】

- ① 社会の変化と学習指導要領の趣旨並びに児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、児童生徒が将来社会で自立的に生きるために必要とされる「生きる力」を育むために、調和と系統性の観点を押さえた教育課程の編成と確実な実施に努める。
- ② 国語力（言葉）を育成するために、低・中学年の国語科において話すこと・聞くこと・書くこと・読むことなどの基本的な力を定着させた上で、各教科等において発達段階に応じ、対話、記録、報告、要約、説明、感想等の言語活動を積極的に取り入れる。
- ③ 児童生徒が将来対面する国際化社会への適応とコミュニケーション能力を養うため、小学校1年生から外国語（英語）活動を体験させ、「できた。わかった。」の達成感を通して、他教科も含めた全体的な学力の向上に努める。
- ④ 地域の自然や産業及び文化的行事等、地域素材の教材化を進め、自らの生き方を考える力を育てる。
- ⑤ 体験的な理解や繰り返し学習を重視し、基礎的・基本的な知識・技能を、発達段階に応じて徹底して習得させる。
- ⑥ 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むため、発達段階に応じて、I C Tの活用を工夫し、学習意欲の向上を図る。
- ⑦ 体験活動の充実を図ることにより、児童生徒に他者、社会、自然、環境との関わりの中で社会

活動や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていく教育の実践に努める。

（２）指導方法の工夫・改善

【分かる、できる授業の展開】

「分かる授業」「できる喜び」を味わわせる授業の構築を目指すため、宮城県教育委員会の「学力向上に向けた５つの提言」と「七ヶ宿小・中学校学習スタンダード（改訂版）」を実践し、学習意欲を高め自信を持たせる授業づくりを展開する。

【基礎・基本の確実な定着と探究型学習活動】

授業は、児童生徒の学習意欲を喚起し、基礎的・基本的な学力を確実に定着させた上で、児童生徒の学習状況に応じて、知識・技能を活用する探究型の学習活動も適宜行う。

【少人数を活かした指導法の工夫】

- ① 小規模校の特色を活かし、児童生徒一人一人の実態や全国学力・学習状況調査等の結果分析を踏まえ、個別指導、繰り返し指導、ＩＣＴを活用した指導などの指導方法や指導体制を工夫・改善し、個に応じた教科指導を充実させる。
- ② 小規模校のデメリットを補うため、交流学习、体験学習、合同授業やＴＴ（協力教授組織）を活用するなど学習形態や指導方法の工夫を図ると共に、ＩＣＴを活用した他校との合同授業の取り組みを研究し、児童生徒の社会性や協調性及び発表力や表現力の育成に努める。

【きめ細かな補充学習の充実と発展的な学習】

つまづいている児童生徒には、補充学習を充実させるなどきめ細かな指導、支援できる場を設定すると共に、一定の理解の程度にある児童生徒には、発展的な学習を行うなど児童生徒一人一人に応じた「確かな学力」を育成する。

【授業改善】

これからの時代に求められる資質・能力の育成を図る取組を進めるため、教材・教具や学習ツールの一つとしてＩＣＴ機器を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を充実させ、生涯にわたり学び続ける児童生徒を育成する。

【家庭との連携による家庭学習の習慣化】

児童生徒の家庭生活や家庭学習等を把握し、授業に関連を持たせた課題や宿題を提供すると共に、児童生徒が目標を立て家庭学習の習慣化を推進し、適切に点検・評価を行う。また、常に家庭と連携を図りながら家庭学習の在り方を検討し、実践する。

2

豊かな心の育成

【道徳教育の充実】

- ① 「主として自分自身に関すること」、「主として他の人との関わりに関すること」、「主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」、「主として集団や社会との関わりに関する道徳的諸価値の理解と判断力」を培い、社会体験や自然体験を生かした学校教育活動全体を通じた道徳教育の充実に努める。
- ② 特別の教科「道徳」について、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導計画に基づき実践に努める。

【好ましい人間関係の醸成】

一人一人が大切にされ、一人一人の多様な個性を尊重し、互いに認め合える児童生徒同士の好ましい人間関係や教師との信頼関係を構築し、温かい雰囲気の中で安心して自分の力を発揮できる学級・学校の環境づくりに努める。

【志教育の推進】

- ① 志教育の理念のもと、「人とのかかわる」「より良い生き方をもとめる」「社会での役割をはたす」という3つの視点で自分の生活を振り返ることを通じて、学習や体験的活動の成果を自分の生き方として考え、将来の夢と志の実現に向けて自主的・自立的に行動する児童生徒を育成する。
- ② 小・中学校の内容を整理し、発達段階を踏まえた系統的で協働的な志教育の推進を図る。

【キャリア教育の充実】

「生き方指導」としての進路指導の重要性に鑑み、児童生徒の実態や発達段階に応じた進路学習を、各教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間との有機的な関連のもと、計画的・組織的に教育課程に位置付ける。その際、上級学校の説明会や学校見学、職場見学、職場体験学習等、体験的な学習を取り入れながら、進路選択能力を育成すると共に、進路相談の計画的・継続的实施に努める。

【家庭と連携した基本的生活習慣・規範意識の形成】

家庭との連携・協力のもと、「はやね・はやおき・あさごはん」やあいさつ等、社会生活を送る上で望ましい基本的生活習慣や規範意識、及び自立心の育成に努める。

【生徒指導の校内体制整備と関係諸機関との連携】

児童生徒一人一人の心理・身体状況を適切に把握しながら、全職員が一致協力して生徒指導に取り組む校内体制を整備すると共に、保護者やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係諸機関と連携し、「いじめ」や「不登校」及び「暴力行為」等の問題行動への対応は、適時・適切に行い、早期の解決、改善を目指した指導を行う。

【国際理解教育の推進】

自国や外国の生活や文化、習慣を理解し、国際性を身に付けさせる学習については、ALTを活用して幼児期から実践し、児童生徒の実態や発達段階を考慮しながら、外国語活動並びに国際理解教育の推進を図る。

【体験的活動等による豊かな感性と行動力の育成】

音楽会、作品展や芸術家を招いてのアウトリーチ事業などの文化的活動、福祉施設でのボランティア活動、スポーツ活動の推進により美しいものに感動したり、共に助け合って生きる共生意識の醸成や自己実現を図ったりするなど、豊かな感性と自ら考え行動できる力を育成する。

【情報教育・環境教育・福祉教育・人権教育の推進】

情報教育、環境教育、福祉教育、人権教育等、今日的課題となる教育内容を、児童生徒の実態や発達段階を考慮しながら、教育課程の調和や系統性の観点から適切に位置付けると共に、計画的な実施に努める。

情報教育として、児童生徒のタブレット端末を効果的に活用し、情報社会に主体的に対応できる情報活用能力の育成に努め、プログラミング学習を充実させる。

SNS等によるトラブルやネット依存など情報化社会の進展に伴う課題に対応するため、携帯電話・インターネットに関する安全・安心教室の開催や、家庭への啓発活動の促進等により、情報モラル教育の充実に努める。

【愛郷心の育成と地域人材の活用】

- ① 郷土の生活様式、風俗、習慣、歴史や伝統に興味・関心を持たせ愛郷心を育てるため、教育活動全体を通じて体験的学習を取り入れ、積極的に地域人材を活用し、地域の教育力を生かす。
- ② 地域や町主催の行事に積極的に関わり、より地域や町の文化に触れ、それを受け継ぎ、ふるさとを誇りに思う心を醸成する。

【健康・安全教育の充実と食育教育の推進】

- ① 児童生徒一人一人の心身の健康保持に配慮し、マラソンやスキーなどの年間を通した継続的な運動を通じて体力の向上を図り、生涯スポーツの基盤づくりを行うと共に、心身の調和的発達を目指すため「体育・健康に関する指導」を学校の教育活動全体を通じて適切に行う。
- ② 生涯を通じて健康的な生活を送るための基礎を培う観点から、生活習慣病や性教育等の健康に関する現代的な課題や食に関する指導などは、健康教育の一環として、児童生徒の実態や発達段階に応じて、適切に教育課程に位置付け、学校教育活動全体を通じて取り組む。
- ③ 児童生徒の健康の保持増進、安全の確保を期し、効果的な学校保健・安全計画を作成し、学校保健委員会を有効に活用するなど学校組織一丸となって計画的に遂行する。

【特別支援教育の充実のための体制整備】

障害の有無にかかわらず、全ての児童生徒の教育的ニーズを把握し、そのニーズに対応するため、特別支援学級の児童生徒の適切な理解に努め、校内外の総合的支援体制を整備すると共に、特別支援連携協議会が中心となり児童生徒の将来の社会的自立を目指した指導・支援、実態の把握、分析、評価を行い支援体制整備の充実を図る。

【特別支援教育の教育課程の編成】

- ① 特別支援学級の教育課程は、児童生徒の障害の状態を的確に把握した上で、小・中学校学習指導要領に基づき、自立し社会参加する資質を養うことを目指し、実態に即した教育課程を編成する。
- ② 特別支援学級においては、児童生徒並びに保護者の教育的ニーズを的確に把握した上で、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ「教育支援計画」と「個別の指導計画」を適切に作成し指導にあたる。

【共に学ぶ場の環境づくり】

特別支援学級においては、児童生徒の実態に応じて通常の学級との交流学习や共同学習を推進する。

【教職員の人格の陶冶と指導力の向上】

教育の目的である「人格の完成」と「国家・社会の形成者として心身共に健康な国民の育成」を実現するためには、ひとえに教職員自身が人格の陶冶と指導力の向上に励み、地域の信頼に応え、職責の遂行に努めるものとする。

【実践的研究の推進と積極的な授業公開】

教員研修の一環として、授業研究を核とした実践的研究や七ヶ宿町教職員研究会活動を組織的・計画的に推進し、「地域に開かれた信頼される学校」として、保育所・小中学校間や保護者、地域住民や関係者に授業公開を積極的に行って評価を受けることにより、授業改善に資する。

【充実した校内研修の計画と実施】

授業改善に役立つ指導法の研修や今日的教育課題に関する研修、教職員のニーズに基づく研

修やライフステージに応じた研修等、充実した校内研修の計画と実施に努める。

【関係諸機関を活用した教職員の資質向上】

総合教育センターや関係諸機関の研修に積極的に参加し、児童生徒の課題や学校の今日的課題を解決する情報を収集し、常に教職員としての資質向上に努める。

教育D Xを推進するため教職員研修を実施し多様化する教育ニーズに対応できる教職員を育成する。

【職員評価制度の有効活用】

学校の活性化と教職員の資質向上を目指して実施している「職員評価制度」を有効に活用し、自己評価と適正な面談の実施により、教職員個々及び学校力の向上が図られるようにする。

【職員コンプライアンスの体制の推進】

県民、町民の信頼に応じて学校教育の充実を図り、児童生徒の人間的な成長を促すために職員自らが模範となって法令やマナー、ルール等の様々な社会規範を率先して遵守する体制の推進を図る。

6

学校・家庭・地域の協働による開かれた学校の推進

【学校・家庭・地域の役割遂行と相互協力による学校教育の充実】

- ① 学校・家庭・地域が共に協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進めるため、学校運営協議会を核として運営推進にあたる。
- ② 学校・家庭・地域は、それぞれの教育的役割と責任を自覚すると共に、相互の連携・協力により、充実した学校教育の推進に努めるものとする。

【適切な情報提供と説明責任を果たす信頼される学校づくり】

- ① 各学校は、保護者や地域住民の期待や要望等を的確に把握すると共に、学校経営方針や努力事項の策定にそれらを活かし、P T A総会や授業参観等を活用して説明し理解を求めると共に、実施状況を適時・適切に情報提供するなど説明責任を果たす。
- ② 各学校は、学校経営方針や努力事項の遂行状況について適時に評価・反省を加えながら課題を克服する対策を学校組織全体の英知を結集して策定・実行すると共に、授業参観や学校行事を活用して外部アンケート等を実施・分析することにより学校経営の改善に資するものとする。
- ③ 学校教育活動の取組状況を適宜発信することは、学校教育への理解と協力を得る上で非常に重要であり、学校便りや広報誌等により適時・適切に保護者や地域住民に広報する。

【人的・物的両面にわたる開かれた学校の推進】

- ① 各学校は、保護者や地域人材と協働して魅力ある教育活動を推進すると共に、学校施設の開放と地域の社会施設等を積極的に活用するなど、人的・物的両面にわたる地域に根差した「地域に開かれた信頼される学校」を推進する。
- ② 給食に地場産の食材を積極的に使用し、地域の活性化を図ると共に安全・安心な給食を提供する。

【P T A活動の活性化】

P T A活動は、地域住民の一員である保護者と連携・協力して学校教育活動について考え行動する機会であり、「地域に開かれた信頼される学校」づくりを推進する上で有効な機会と捉え、積極的な参画によりP T A活動の活性化を推進する。

【地域活動への参画意識の啓発】

教職員が地域の諸行事に参加することは、視野を広め、地域への理解を深める上で有効であることから、教職員の地域活動への参画意識の啓発に努める。

【地域住民に対する学校の持つ教育機能の活用】

学校は、その実情に応じ可能な範囲で、学校施設・設備を活用した地域住民対象の公開講座等を開設し、通常の授業へ参加できる機会を設けるなど、学校の持つ教育機能の活用に努める。

【学ぶ土台づくりの推進】

- ① 幼児期から思春期にかけての成長・発達のために、発達段階の違い、相互の活動や学習内容及び指導方法について理解し合い、保育所、小学校間で連携しながら、学びの土台をつくと共に、学びの連続性を確保し、「幼児教育から小学校への円滑な接続」に努める。
- ② 特に、学びの土台としての、幼児期から小学校までの時期に、基本的な生活習慣の確立（はやね・はやおき・あさごはん）と外遊びの充実を図り、保育所、小学校低学年とのアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムによる交流活動を展開する。

7

安全・安心で魅力ある学習環境の整備

【快適で魅力ある学習環境】

- ① 「環境が人をつくる」ことを学習環境整備理念の根底に据え、安全・安心と潤いやゆとりある学習環境の提供に努める。
- ② 児童生徒の作品や学習活動の取組等を適時・適切に掲示し、学習意欲の向上につながる学習環境づくりを創意工夫する。
- ③ 毎日の清掃活動を重視すると共に、学級花壇等を整備し、緑と花のある学校づくりに努め、環境美化の意識を醸成する。
- ④ 時代の要請を確実に把握し、特に子育て世代のニーズに応えるため放課後児童クラブを運営することで、学びと子育て両面の支援を行う。

【危機管理マニュアルの整備】

大規模地震・火山噴火・北朝鮮による弾道ミサイル・自然災害・鳥獣等への対策や不審者対策など各学校における危機管理マニュアルを整備し、事故等に迅速に対応できる実際の訓練を計画的に実施する。

【地域と連携した安全な環境整備】

- ① P T Aや地域住民と連携・協力し合いながら、児童生徒の安全を確保し、校舎内外の環境を整備する。
- ② いじめの防止、早期発見のための対策及び対処のため地域住民と連携した、いじめ問題対策連絡協議会、専門家によるいじめ問題専門委員会を開催する。

【学校施設整備の充実】

児童生徒の安全な学習環境を確保するため、学校施設及び設備の安全点検・管理に努めると共に、計画的に改修、修繕等を行う。